

異国の地で女の子と交尾 性的解放 と自由を手に入れた童貞のカナト

※この作品は著者の想像などから作ったフィクションであり、内容などは架空のものです。

カナトは日本のこの閉塞感や窮屈さに嫌気がさし、外国に一人で旅することにした。

パスポートを取りに少し離れた駅前の事務所まで電車で向かった。

事前に連絡をとっておき、その日中に取りることが出来た。

一般によくあるのが、取るだけとって使わないというやつで、自動車のペーパー免許などとも似ている。

しかしカナトは覚悟があった。

1人で外国に旅をするなど決死の覚悟とも言えるものだ。

あてはない、旅を共にする友達もいない。

それでも一人で旅をしたかった。

友が隣にいと、関係性と言うか枠内から出ることが出来ない気がした。

一步、違う世界に移りたかったというか。あえて孤独になろうとしたのである。

ちなみにカナトはまだ童貞でもあった。

飛行機の中でも心臓の鼓動は止むことなく高ぶっていた。

そして降り立ったのは東南アジアの一国。

日本でも旅行に来る人が多いと聞いていたが、カナトの目的は自分を変えるため。

バッグには音楽のストリートライブをしようと持ってきたオカリナと小さなウクレレ。

カナトは高校時代から音楽を趣味としてやっていた。写真も自分なりに勉強していた。

写真や音楽の夢を模索しながら傍らで仕事をする日々。

一旦それらを置いておいて、社員として頑張った日々もある。

その日その日をそれなりにカナトなりに楽しんで来たのだが、どこか煮え切らないというか燻（くすぶ）っている、本当にこれがやりたいことなのか・・・といった気持ちがなくならずにいた。

降り立ったインドネシアでは、地元住民を主に多くの人だかりが出来ていた。市場では見たこともない食材で人が賑わい、同様に見たこともない遊び道具で子供たちが遊んでいる。乗り物にしても然り。

日本でいう人力車のようなものが全く形を変えて存在していたのを見てカナトは驚いた。

カナトは予約しているホテルもない。

その日をどうしようか考えて歩き回る。

市場の人だかりのを通り過ぎ、少し閑散とした広い路地へ出る。

そこで腰を下ろし・・・何かやってみようという精神でウクレレを取り出して演奏してみた。

弦をそっとつま弾（び）いてみる。

横には大きなバッグがあるだけ。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)